



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

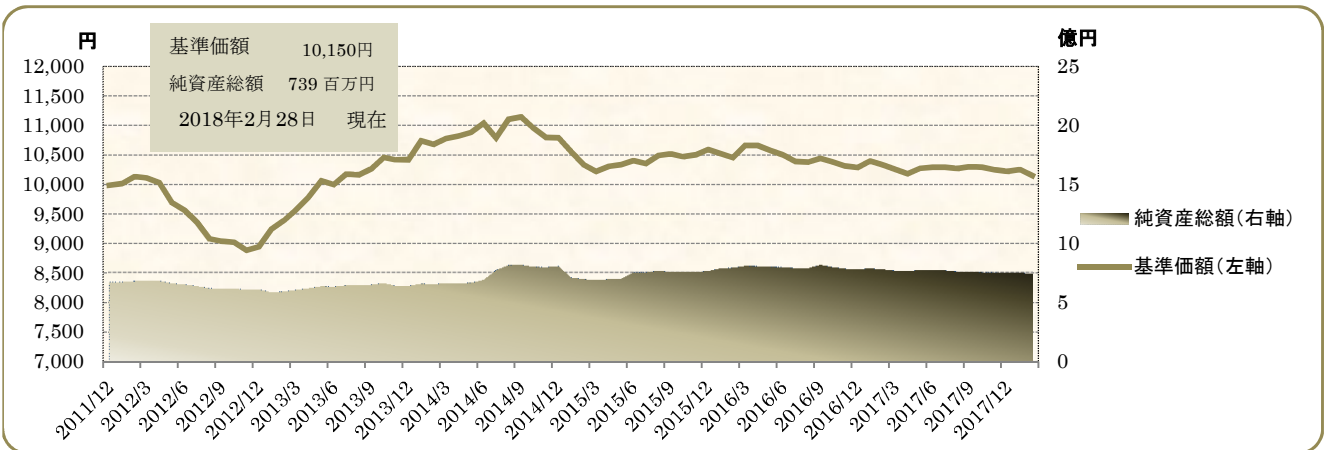
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2018年2月28日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

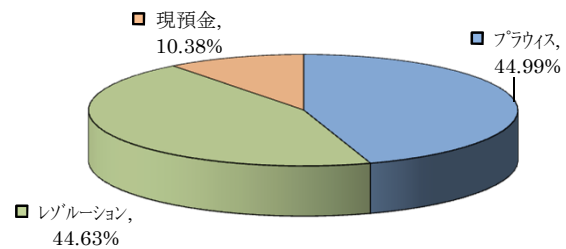
2018	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.35%	-1.02%											-0.68%
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%	-0.74%	0.89%	0.15%	0.02%	-0.24%	0.32%	-0.08%	-0.41%	-0.31%	-0.65%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2018年2月28日	
基準価額:	10,150円	対前月比 -105円
純資産総額:	739百万円	対前月比 -11.5百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.99%
基準価額騰落率	6ヶ月	-1.15%
設定来	ファンド	1.50%
基準価額騰落率	TOPIX	144.38%
	日経平均	162.66%

投資対象ファンドへの資産配分 (2018年2月28日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2018	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	1.14%	-0.92%											0.20%
レゾリューション	0.25%	-0.71%											-0.46%
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	0.49%	-0.64%	-1.07%	0.54%	0.23%	1.11%	1.29%	0.18%	0.89%	0.64%	-0.02%	0.13%	3.82%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%	-1.57%	2.37%	-0.94%	-0.61%	-0.11%	0.42%	-0.15%	-0.30%	-0.22%	1.36%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

2月の株式相場は、日経平均で4.46%下落の22,068.24円、TOPIXで3.73%下落の1,768.24ptとなりました。米雇用統計を発端にFRBが利上げを急ぐとの見方から、米株急落、VIX指数急上昇を受け世界的な株安となりました。中旬以降はVIX指数は低下しましたが、円高が重荷となり、米国の戻りと比べ日本株の戻りは小さめとなりました。

上旬は、下落しました。米株高や円高一服などから前月に下落した銘柄の買戻しから始まりましたが、米雇用統計で賃金上昇率が高水準となり、FRBが利上げを急ぐとの見方から米長期金利が急上昇。米株の急落とVIX指数急上昇を受けて世界的な株安となり、日本株もほぼ全面安となりました。

中旬は、VIX指数が低下してきたことが好材料とみなされましたが、1ドル105円台に突入する円高ドル安となり、自動車など外需の業績悪化を懸念する売りが広がりました。米国株が戻り基調となると、買い戻される局面もみられました。大型株に比べ、小型株の堅調が目立ちました。

下旬は、VIX指数の低下やWTI上昇などが材料となりましたが、米長期金利上昇が重荷となりました。米長期金利が低下する局面では米国株が上昇となり、日本株も堅調となりました。月末にはFRB議長の議会証言が材料と目されましたが、米国株が軟調となったことや、中国製造業PMIが予想に届かなかったことなどが悪材料となり、下落して終わりました。

セクター別騰落率では、精密機器、医薬品、その他製品、小売、電力・ガスが上位となり、海運、ゴム製品、鉱業、非鉄金属、ガラス土石製品が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり3.2兆円と、活況の目安となる2兆円を16ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが2.9%の下落とTOPIXをアウトパフォームしましたが、東証マザーズ指数は5.7%の下落となり、TOPIXをアンダーパフォームしました。

ファクター面では、バリュエーション関連のファクターも、グロース関連のファクターもマイナスリターンとなりました。2月前半のマーケット急落時に低リスクシフトが発生したことが背景にあります。割安な高ベータ株が売られたことがバリュエーションファクターにマイナス寄与し、低成長の低ベータ株がアウトパフォームしたことがグロースファクターにマイナス寄与しました。その後マーケットがリバウンドし始めると、グロースファクターのパフォーマンスは徐々に回復に向かいましたが、バリュエーションファクターは逆に悪化を辿っていきまします。2017年からのグロース優位の相場は継続していると言えます。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブライウス】

＜ファンド運用状況＞

2月の運用成績はJPYクラスで-0.92%となりました。マイナスの要因として①電機セクターで市場予想を下回る決算により大幅に下落した銘柄が多かったこと、②化学、機械セクターにおいて円高進行により来期業績の不透明感が強まり相対的にアンダーパフォームしたこと、③ショート比率の高かった内需株が逆行高となったことなどが主な要因と考えます。

セクター別の損益では、情報通信、REIT、商社、ガラス土石セクターでプラスとなり、化学、電機、機械、小売り、食品、非鉄金属セクターでマイナスとなりました。

【レゾリューション】

＜ファンド運用状況＞

2月の株式市場は、明確なローリスク銘柄優位となり、利益モメンタムやバリュエーション銘柄が劣位となりました。また、リスク回避的な動きの中で小型株が大きく売られる局面があり、月末に向けて戻すも限定的なものとなりました。

ポートフォリオは引き続き、電気、情報、サービスのセクターをオーバーウェイトとし、全体として内需グロースベットのポジションにあります。また、業績安定性の高い銘柄についても組入を増加させています。

ファンドパフォーマンスは、高バリュエーションな銘柄や業績がピークアウトしつつある銘柄のショートがプラス寄与となりましたが、全体としてロング銘柄のマイナス寄与が大きく、月末に向けて回復傾向にあったものの、結果としてマイナスに終わりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

3月の株式市場は揉み合いの展開を想定します。株価下落により、日本株のバリュエーション面での割安感がありますが、円高傾向が続いていることから、輸出関連企業を中心に来期業績への懸念が強まっており、当面はボックス圏での推移となると考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

基本的に、業績で大きなバリュエーションを付ける相場が続くと思われませんが、株式市場のボラティリティ上昇を意識した、リスク回避的な行動は継続すると思われ、高バリュエーションな小型株にも変化が生じる可能性が高いと思われまします。

グローバル経済の好調さを前提にしながらも、株式市場において、シクリカル銘柄への楽観的なスタンスを取り難いため、引き続き個別業績に着目した銘柄選別を行います。

3月は、引き続き内需グロース銘柄を中心としながら、中期的な時間軸で、来期以降の業績反転を期待する銘柄のロング組入を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**